

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
尽	ジン つかす つくす 常①								王勃詩序
盡	人②								龔賢指歸
局	キョク つばね 教3 常①								王勃詩序
									光明皇后
尿	ニョウ いばり ゆばり しと 常①								
尾	ビ お 常①								瑠玉集
									五経・尸部
居	キョ いる おる 教5 常①								聖武天皇雜集
屈	クツ みがむ かがめる 常①								聖武天皇雜集

【尽】「盡」の草書からできた略字だとおもわれる。「盡」には横線の数の違いによる異体字、「𦘒」を横線にする異体字、「𦘒」を省略する異体字がある。

【局】「尸+句」の異体字が「局」よりも優勢。

【尿】説文解字では「尾」部に分類されている。

【居】説文解字には3つの字体が載っている。そのうち「足」に従う字について大徐本と段注本は字体が異なる。段注によればこれは小徐に依るものだという。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												尽 明治の漢字 中国
												盡 陸軍 台湾・香港
												局 千祿(俗) 中・台・香
												尿 中・台・香
												尾 中・台・香
												居 中・台・香
												屈 中国・台湾
												屈 香港



親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
属	ソク さかん つく やから 教5 常①		属	属	属	属	属	属	属
属	②		属	属			属	属	
			属					属	
層	ソウ かさなる 教6 常①		層				層	層	
層	人③						層		
履	リ はくつ む 常①		履	履	履	履	履	履	履
			履	履				履	
屯	トン たむろ 常①		屯	屯	屯	屯	屯	屯	屯
			屯	屯	屯		屯		
			屯	屯					
山	サン やま せん 教1 常①		山	山	山	山	山	山	山
			山	山	山	山	山	山	山
			山	山	山		山		
			山	山			山		

【屯】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
属	属	属	属	属	属	属	属	属	属	属	属	属
属	属	属		属								属
				属								属
				属								属
層	層	層	層	層	層		層	層		層	層	层
				層								層
				履	履		履	履		履		履
				履								履
屯	屯	屯	屯	屯	屯		屯	屯				屯
				屯								屯
				山	山		山	山	山	山		山
				山								山

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆家	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
岐	キ えだみち わかれる		𠂔	岐	岐	岐	岐岐岐	岐	王勃詩序
			岐	岐			邳	岐	龔替指歸
			嵒						
岡	おか コウ		岡	岡			崗崗岡	崗	王勃詩序
							崗	崗	王勃詩序
岳	ガク たけ		岳	嶽	嶽		岳岳岳	岳	王勃詩序
嶽			嶽	嶽			岳嶽嶽	嶽	龔替指歸
				岳			岳	嶽	
							嶽	嶽	
岸	ガン きし		岸	岸	岸	岸	岸岸岸	岸	聖武天皇集
岬							岸		
岬							岸		

【岐】2020年に教育漢字の小学4年生に配当された。説文解字には「支+邑」の字体で邑部にあり、或体として「岐」が載っている。南北朝期以降に「咎なし点」がついた例がある。上代から平安にかけて「山」を「止」と間違えた例がある。漱石の字体の知識には驚愕する。

【岡】2010年(平成22年)に常用漢字表に追加された。【岳】「嶽」と異体字。漢代の魯俊碑、南北朝期の元鑑墓誌は説文の古文に倣った字。五経文字では「岳」を象形、「嶽」を形声とする。康熙字典には「岳」と「嶽」が別々にあるが、「嶽」の古文としても「岳」がある。南北朝期、日本の平安時

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん こころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
岐	岐	岐	岐				岐	岐		岐	岐	岐
			嵒									岐
			嵒									岐
			嵒									岐
岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡	岡			岡	岡	岡
												岡
												岡
												岡
岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳	岳
												岳
												岳
												岳
岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸	岸
												岸
												岸
												岸

代に「岳」の「山」を「止」に誤る例が見える。「山」を「止」は草書にすると字体が衝突するからだろう。「嶽」の「山」を下部に移構する異体字があった。【岸】移構による異体字「岬」がある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文・篆書 (殷・西周・春秋・戦国・秦)	説文解字 篆書	隸書 (前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
岩	ガン いわ		説文不録						元順葛誌 伝空海・頼朝琳抄
岳	ガン いわお いわし								
崑			説文不録						
崑									
巖	ガン ゲン いわお いわし								聖武天皇雜集
巖	ガン ゲン いわお いわし								張猛龍碑 雁塔聖教序
巖									鄭義下碑 道因法師碑
岨	ソ シヨ そば そばだつ								論経書詩 五経・山部
岱	タイ								元通葛誌 孟法師碑 二荒山碑文
岬	コウ みさき		説文不録						
峽	キョウ はざま		説文不録						王勃詩序
峽									
峠	とうげ		説文不録						

【岩】説文解字には「岩」は掲載されておらず、「岳」を「山巖也」、「崑」を「巖也」、「巖」を「岸也」とする。正字通では「岩」を「岳の俗字」としている。陸軍幼年学校用字便覧では「岩」などを通用字としながら「いはほトイフニハ巖ヲ用ヒテ岩ヲ用ヒズ」と注釈を入れている。文部省活字には

「岩」はあるが「巖」はない。  
【岱】説文解字の大徐本と段注本では移構(動用字)の関係。  
【岬】1981年(昭和56年)に当用漢字表外から常用漢字表に追加された。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん ころ	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												岩 中国・台湾
												岩 香港
												崑 元・馮子振
												岨 香港
												岨 中国・台湾
												岱 中国・台湾
												岱 香港
												岬岬 台湾 香港
												岬 中国
												峽 中国
												峽 中国・台湾
												峠 香港